

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立川副中学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校生徒の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和5年4月18日(火)

■ 調査の対象学年

中学校3年生生徒

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、数学、英語)

- | |
|--|
| ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。 |
|--|

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

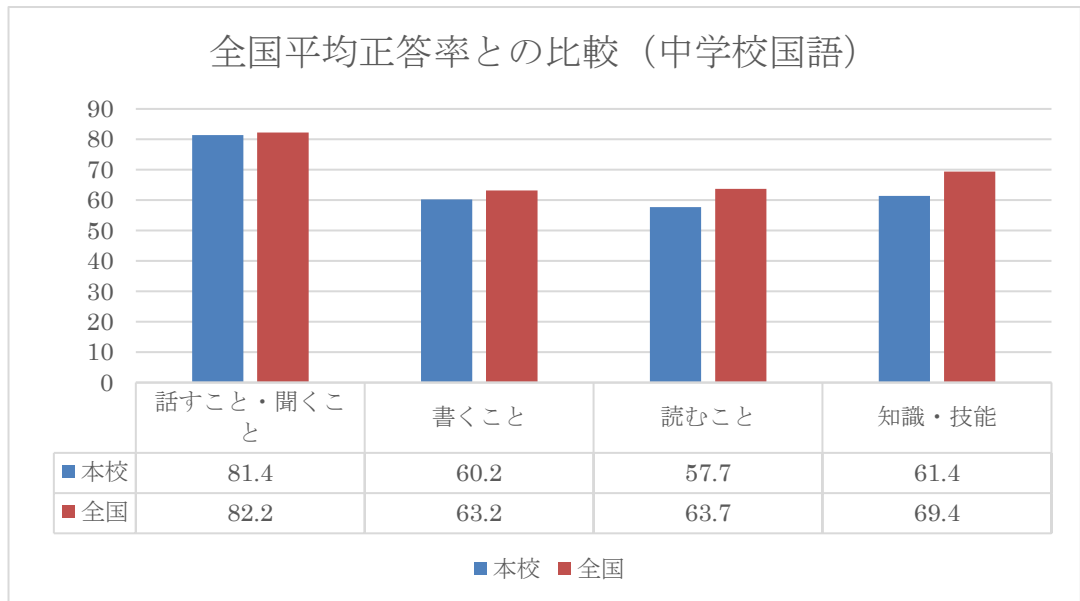
児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学、英語(中学校)に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の側面」であることをご理解の上、ご欄ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語



(1) 結果

全ての領域において全国平均を下回りました。特に、「読むこと」は 6.0 ポイント、「知識・技能」は 8.0 ポイント下回りました。

(2) 成果と課題

今回の調査で、「話すこと・聞くこと」と「書くこと」の領域においては、全国平均とほぼ変わらない値となり、授業における発表の活動や、佐賀市の研究の一つであったステップ作文の成果が一定量表出したと考えられます。課題は、「具体を抽象化する、抽象を具体化する」力と、「漢字等の知識・技能」を身に付けることです。段落に書かれている内容を把握し見出しを付けるような、具体的な情報を抽象化したり、文字情報をもとに視覚情報や音声情報を想像するような、抽象を具体化したりする力が不足していると考えられます。また、「推し量る」の「推し」を正確に漢字で書けなかった生徒が全国平均と比べて 24.6 ポイント下回っています。これは、中学校第3学年に適した文学や論説文等に触れる機会が少なく、平易な言葉を用いている書籍を選んだり、難解な語句を目にしても、解決を図ることなくそのままにしたりしていることが考えられ、普段の読書生活を見直す必要性を感じます。

(3) 学力向上のための取り組み

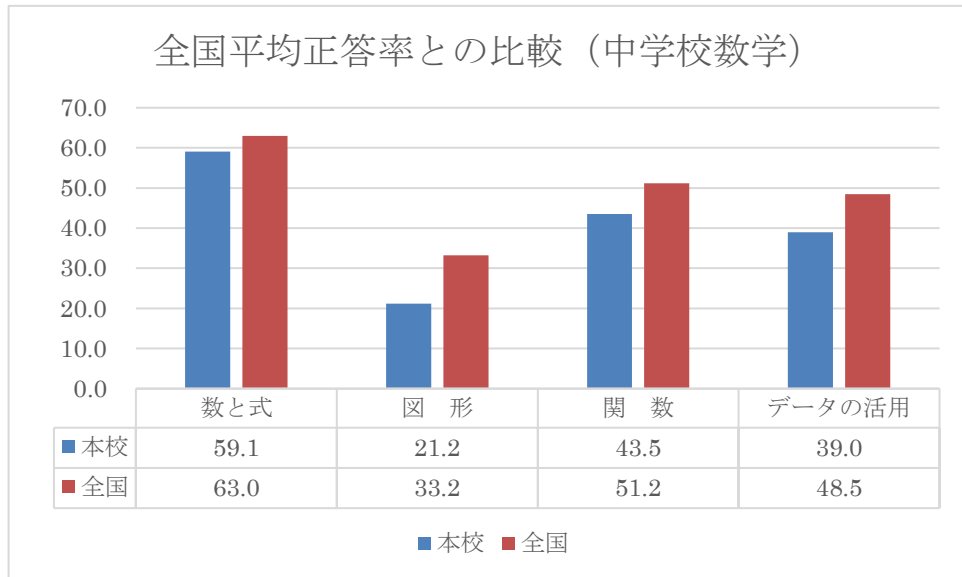
【学校では】

- 子どもが主体的に学べるように、授業の在り方を工夫すること（主体的・対話的で深い学び）で、子供同士が話し合いながら、深く学んでいけるようにします。
- 目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながらかく機会を増やします。
- 漢字の読み書き、ことわざ等の学習に一層力を入れるとともに、辞書を活用させ、語彙力を増やします。
- インタビュー、案内や紹介など、日常生活につながる言語活動を授業場面で設定します。

【ご家庭では】

- 音読を大切にしていきましょう。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。
- 読書を大切にしていきましょう。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろんな本を読み、いろんな表現や用語にふれ、調べることで、語彙力を高め知識の幅を広げることができます。市立図書館や本屋に定期的に行くことも、子供の読書習慣をつける上でおすすめです。

2 数学



(1) 結果

全国平均を下回る結果でした。特に図形の領域では、大きく下回っています。また、無解答率を見ると、記述式の問題の無解答率が高くなっている傾向がありました。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「A 数と式」の領域の、数と整式の乗法の計算や、問題場面における考察の対象を明確に捉えることができるかどうかを見る問題の正答率が高くなっていました。

しかしながら、「D データの活用」の領域の、累積度数の意味や四分位範囲の意味を理解しているかどうかを見る問題の正答率が全国平均正答率を10ポイント以上下回っていました。また、記述式の問題での正答率も全国平均正答率を下回る結果となりました。

今後、日々の授業で知識・技能の定着を図るとともに、自らの考えを書き、表現することができるようにすることが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

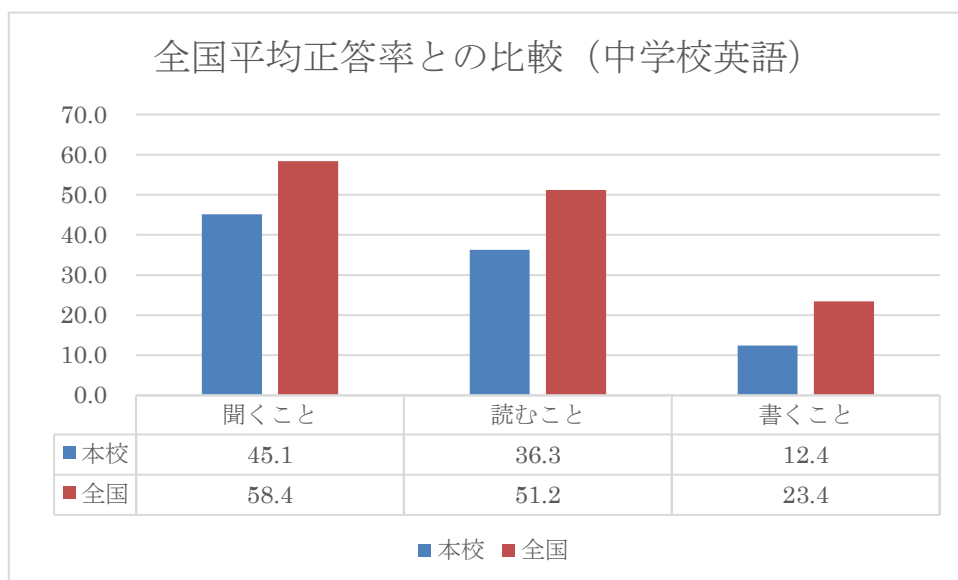
【学校では】

- 日々の授業の中で、小テストなどの知識・技能を振り返る場面を設定し、定着を図るために繰り返し指導を行いたいと思います。
- 様々な見方や考え方ができるように、ペア活動や学びあい活動を取り入れていきます。また、自分の考えを、式や言葉を使って表現し伝える対話的活動の機会を設定し、記述力の向上に努めます。
- 数学の学習を通して、学んだ内容と日常生活を関連付ける課題を設定し、生徒が主体的に取り組みたいと思えるような題材を研究します。

【ご家庭では】

- 生徒の学習の様子やテストをご覧になって、一緒に喜んで、ほめてあげてください。保護者の方との関わりが生徒のモチベーションを向上させます。
- 計算の技能は毎日の積み重ねが重要です。1日数問でいいので、毎日、問題を解く習慣を身に付けてほしいと思います。
- 日常生活の中で数学を活用できる場面は多々あります。日常生活の中で数学を使う便利さを味わう経験をすることで、数学的な思考力の育むことができます。

3 英語



(1) 結果

全ての領域で全国平均を下回っています。

全ての領域で 10 ポイント以上と大きく下回る結果となりました。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「聞くこと」の領域の短い情報を正確に聞き取ることができるかをみる問題や事実と考えを区別して読み取ることができるかをみる問題はできていました。

社会的な話題について、書き手の意見に対する自分の考えやその理由を書くことができるかをみる問題や日常的な話題について、文章の概要を捉えたり、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書いたりすることができるかをみる問題は、かなり正答率が低い結果となり、課題が見られました。

文章を正しく書くことができるように、知識・理解の定着を図る必要があります。また、自分の考えや気持ち、その理由を話したり書いたりする言語活動を計画的・継続的に行うことが重要だと考えます。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 基本的な語彙や表現の定着を図るために、小テスト等を繰り返し行います。
- スピードテストやパフォーマンステストを通して、相手に自分の考えを伝えたり、相手とやり取りをしたりすることができるような活動を継続して行います。
- 読み取った内容について、自分の考えや理由を含めてまとまりのある文章を書く活動など、統合的な言語活動の充実を行います。

【ご家庭では】

- 音読練習は英語力を高めます。意味を理解している英文の音読を繰り返すことで、英語力を総合的に高めることができます。教科書には各ページに QR コードがつきますので、音読練習にご活用ください。
- 授業以外でも英語を使う機会を増やすことが英語力の向上につながります。

4 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」と回答した児童(生徒)の割合。

《生活習慣・自己肯定感・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	78.7%	78.6%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	33.7%	34.7%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	58.4%	54.8%
自分にはよいところがあると思いますか。	33.7%	37.2%
将来の夢や目標を持っていますか。	49.4%	39.4%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	82.0%	71.7%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	89.9%	80.3%

生活習慣に関しては、全国平均とほぼ同じです。今後も生活のリズムを大切にしていけるよう家庭と学校で協力していきましょう。「将来の夢や目標を持っている」「社会の役に立ちたい」「いじめはいけないこと」と考えている生徒は全国平均を大きく上回っており、高い規範意識をもっています。しかし、自分にはよいところがあると認めることができている生徒は3割程度で、自己肯定感が低いことが伺われます。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。	14.6%	15.3%
学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	5.6%	10.3%
「2時間以上、3時間より少ない」	14.6%	23.4%
「1時間以上、2時間より少ない」	31.5%	32.1%
「30分以上、1時間より少ない」	34.8%	18.0%
「30分より少ない」	10.1%	9.9%
「全くしない」	3.4%	6.0%

家庭学習については、計画を立てて勉強をしている生徒は全国平均とほぼ同じです。しかし、家庭学習の時間が全国平均よりも低く、1時間未満の生徒が約5割以上を占めており個人差も見られます。家庭学習の手引きをもとに家庭学習の意味を保護者や生徒に伝えて家庭学習が習慣化するように指導していきます。また、自分の目標に向かって、計画を立てて家庭学習を行う習慣についても指導していきます。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 学校からは、学年に応じた課題を出しています。自主学習(自学)についても毎日取り組んでいます。さらに、授業で学んだことが定着できるように、各教科の課題を通して繰り返し復習させていきます。
- 自己肯定感を高めるために、授業や学校行事、日常の場面において長所や進歩、頑張りなどを認め、自分への肯定的な気付きを促していきます。また、集団の中で、他者とのかかわる中で自分の良さに気づかせたり、個に応じた役割を設定することにより所属意識を高めたりしていきます。

【ご家庭では】

- 学校便りや学年便りなどをご覧になり、学校の話題について会話を増やしてください。
- 中学校では、「学年+1」時間の家庭学習を目標にしています。毎日決まった時間に家庭学習を行う習慣づけをお願いします。
- ご家庭でもお子さんの小さな成功や努力した過程、挑戦や成長などを逃さず褒めて下さい。